

日本におけるキリスト教の歩み

その1 伝来から繁栄期-1

戦
室
町
時
代
1
3
3
6
~
1
5
7
3
1
5

1543年夏、ポルトガル人の乗った船が台風で種子島に漂着。乗船者を助けた日本人へお礼に贈った火縄銃と火薬。これは初めて日本人が手にした鉄砲だった。**鉄砲伝来**、折しもおり世は戦国時代。新たな戦略の兵器をもたらす事になった。

翌1544年ポルトガル人は、豊後に上陸。大名大友義鑑と懇意になる。1546年ポルトガル船の船長が滞在中、祈る姿を大友義鑑の息子、後の**大友宗麟**に見られ何をしているのと尋ねられ、その意味を教えた。これが記録に残る**日本最初のキリスト教伝道**である。

1546年鹿児島県の港にもポルトガル船入港。鹿児島県の一人の武士ヤジロウ（アンジロウ・後にF.ザビエルの付き人）は、ポルトガル船で亡命。インドで受洗した後、マラッカでF.ザビエルと出会う。1549年4月15日F.ザビエル、コスメ・デ・トルレス、ジョアン・フェルナンデス、そしてヤジロウと同時に受洗した従者二人は中国人のジャンクで日本へ向かう。

1549年8月15日聖母の被昇天の祝日、F.ザビエル一行は鹿児島県に上陸。この日初めて日本にキリスト教が伝来した。

ザビエルは日本全国宣教の為、都の裁許状取得を目指していた。宣教は鹿児島県から始まった。ところが仏僧たちの反発が強まり、1550年8月半ば平戸の松浦藩へ逃れた。平戸で裁許状取得、信者を得た後、平戸の信者をコスメ・デ・トルレスに委ね、9月フェルナンデスと鹿児島県で洗礼を受けた忠実な僕ベルナルドの三人で山口へ行く。その後、京の都を目指した。

京都までの途中、堺の商人宅に宿泊、後に幾内教会の中心。都では謁見許可を得られず、比叡山にも入れなかった。当時京の都は、応仁の乱で焦土と化しており、宣教師との謁見どころか悲惨な状況であった。

フ
ラ
ン
シ
ス
コ
・
ザ
ビ
エ
ル
布
教
長
と
し
た
共
同
体